

# 人と人をつなぎ 暮らしやすいまちに

人から人へたすきをつなぐ「RUN伴」  
川西市が今回初めて参加



RUN伴川西実行委員会代表 金剛丸朋子さん

川西でRUN伴を初開催  
認知症を知る機会に

「認知症患者は人目にふれ  
たくないと感じて外に出てい  
けないケースが多いんです。  
認知症になっても安心して暮  
らせる社会をめざす活動が  
RUN伴です」

そう話すのは金剛丸朋子さ  
ん。RUN伴川西実行委員会  
の代表を務め、認知症啓発の  
市民グループまんなる川西を  
作りました。

「平成23年に始まったイベ  
ントに、川西市が今年初めて  
参加。地域住民と認知症の当  
事者、医療福祉関係者などが  
たすきをつないで日本を縦断  
します。走る、歩く、車椅子  
など移動手段は関係なく参加  
できます。この活動をきつか  
けに、認知症のことを正しく  
知ってもらえればと期待して  
います。ひとりでも多くの  
人に参加してほしいんです」  
（関連記事は25ページに掲載）

人に対する気配りが  
暮らしやすいまちをつくる

作業療法士として働く金剛  
丸さん、リハビリステーション  
で患者との出会いが、今回

のイベント立ち上げのきつ  
けになったと話します。

「医療機関に勤めていたと  
き、認知症の人が退院すると、  
生活ができていないか、とても  
気になりました。家に閉じこ  
もってしまったり、家族の負担  
になったり、人との関わりが  
減少してしまいます。そうな  
ると症状が進行した時に、在  
宅生活の継続が困難になっ  
てしまいます」

認知症の人たちが地域で暮  
らすには、地域住民との関わ  
りが大事だと金剛丸さん。

「認知症の知識を持つ人は  
以前より増えました。しかし、  
家族や友人に認知症の人がい  
ないと他人事のように感じて



しまいがちです。若年性認知  
症という病気もあり、高齢者  
だけではなく、誰にでも起こ  
る病気だと多くの人が知って  
ほしい。認知症の当事者は身  
近にたくさんいるんです」

暮らしやすいまちは、気配  
りがつくり出すと金剛丸さん  
は話します。

「目線を合わせてゆっくり  
話すなど接し方しだいで、認  
知症の人たちは暮らしやす  
くなると分かってほしいんで  
す。少しの配慮で暮らしやす  
くなるのは、認知症の人に  
限ったことではありません。  
今後はRUN伴だけでなく、  
まんなる川西としても活動し  
ていきたいです」



## きのこスパゲティ

キノコのうまみを味わう秋の給食メニュー

おとな子どもも  
食と育つ 保健センター  
☎(758)4721

レシピ 市立保育所・こども園給食部会  
●材料 おとな2人、こども2人分  
鶏肉 …… 90g スパゲティ …… 240g  
ニンジン …… 中1/3本 油 …… 小さじ2  
タマネギ …… 1/3個 バター …… 5g  
生シイタケ …… 3個 塩 …… 小さじ1/5  
シメジ、エノキタケ、マイタケ …… 各1/2袋 コショウ …… 適量  
インゲンマメ …… 3本 (ゆで塩は適量外)  
熱量 (おとな1人分) : 446kcal、塩分 : 1.5g

●作り方  
①鶏肉は一口大に切る。ニンジン、タマネギ、生シイタケは薄切り。シメジ、マイタケ、エノキは食べやすい大きさにほぐす。インゲンマメは塩ゆでし1.5分幅に切る。  
②スパゲティをたっぷりの湯で塩ゆでする。  
③鍋で油とバターを熱し、鶏肉・ニンジン・タマネギの順に炒め、軽く塩・コショウをする。キノコ類を入れ、しんなりしたら薄口しょうゆで味付けし、スパゲティを加える。  
④③を軽く炒めてなじんだら皿に盛り、インゲンマメを飾る。

生きる 人権推進課  
☎(740)1150

## 地域への同和教育も話し合いから

市同和対策審議会の答申で  
地域への啓発が始まる

昭和62年、市同和対策審議会が各小学校区で市民に人権問題を啓発する人権啓発推進委員会を作るように答申を出しました。それまでは市民への同和教育の啓発を、各種団体や自治会に任せていました。具体的な差別問題が市内でほとんど見られなかったこともあり、市民の関心は低く、啓発が課題となっていました。

市同和教育協議会の代議員と2人の行政職員が担当し、話し合いを重ねて委員長や幹事を決めていきました。始めは固い雰囲気の中で委員会の話し合いが始まり、会を重ねるごとにメンバーの中でも気心が知れるようになり、やっと取り組みが進むようになっていきました。

同和教育の研究大会は阪神、県、全国といった広域で行われ、市では行われていませんでした。審議会の答申には市でも研究大会を開催することも出ており、各地区での啓発の取り組みやその成果を発表する場として、市同和教育研究大会を行うことになりました。

どの地区でも研究大会での発表があるため、いい加減な取り組みはできない雰囲気がありました。そのため、阪神間で開催される研究大会や研修会への参加、現地学習会などで学び、発表された取り組みを積極的に取り入れて、地域での啓発に反映させていきました。

現在、地域での人権啓発は委員の継続性と委員長の人選などが大きな課題となっていますが、小学校区人権啓発推進委員会ではさまざまな立場の人が関わり合い、人権講座の開催やビデオ上映などを行い啓発を続けています。

(緑台小学校区人権啓発推進委員会委員長 矢野端)

消費生活センターだより 消費生活センター  
☎(740)1167

## 思いもよらない高額請求に要注意

困ったときにすぐ駆けつけると宣伝  
格安料金を表示する緊急修理サービス

事例1 トイレが詰まり、ネットに「水漏れ・つまりを即解決! 1,080円～」と広告している業者に連絡した。作業員が来て、簡単な作業で直らなければ35万円かかると言われた。いろいろやったが直らず、排水管を取り替え、便器や温水洗浄便座も交換することになった。全部で80万円と言われ、70万円に値引きされると言われて契約してしまった。工事は終わったが、高額ではないか。(70歳代 女性)

事例2 マンションの鍵を紛失して部屋に入れなかったの、ネットで「鍵開け5,800円～」とあった業者に連絡して来てもらった。作業前にこの鍵は特に複雑なので6万円になると言われた。高いと思ったが入れないのは困るので頼んだ。ドアの隙間から器具を入れたら鍵はすぐに開いた。出張費を合わせて8万円を請求されたが、鍵の複雑さとは関係のない作業だった。請求金額に納得できない。(20歳代 女性)

トイレが詰まった、鍵が開かないといった場合は誰でも慌ててしまいます。インターネットや投げ込み広告に「修理代〇〇〇円～」と格安料金を表示している事業者がありますが、実は〇〇〇円は最安値で、実際に来てもらうと思ってもよらない料金になる場合があります。

業者に来てもらう前には作業の内容や料金をよく確認しましょう。また作業前にも必ず料金を確かめ、業者にせかされても慌てず、納得できなければ契約しないようにしましょう。

緊急時のトラブルに備え、日頃から安心して頼める事業者の情報を集めておき、トラブルの際に慌てないよう、対処の仕方を確認しておきましょう。